

単元名・題材名		学習のねらい
一 学 期	言葉に出会うために 野原はうたう 1学びをひらく ・シュンシュン(物語) ・漢字①	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの詩に描かれた世界を読み取り、音読する。 ・場面の展開に沿って、登場人物の関係の変化をとらえる。 ・主な部首の名称と成り立ちを踏まえて理解する。
	2新しい視点で ・ダイコンは大きな根?(説明文) ・ちょっと立ち止まって(説明文) ・文法への扉①	<ul style="list-style-type: none"> ・段落の役割に着目して、文章の内容を捉える。 ・段落のまとまりに着目し、文章の要旨を捉える。 ・「文」「文節」「単語」など、言葉の単位について理解する。
	硬筆	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆ペンを用いて、縦書きの特徴を生かした文字を書く。
	3言葉に立ち止まる ・詩の世界(詩) ・比喩で広がる言葉の世界(説明文) ・言葉①	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の言葉の豊かさに触れ、ものの見方や感じ方を広げる。 ・文章全体における各段落の役割をおさえ、文章の内容を正確に捉える。 ・指示する語句の使い分けを理解し、文と文のつながりを把握する。
	読書生活を豊かに 読書を楽しむ 読書案内 本との出会い(コラム)	<ul style="list-style-type: none"> ・読書紹介を通して情報の読み取り方を学習する。
	4心の動き ・大人になれなかつた弟たちに(物語) ・星の花が降るころに(小説) ・言葉② ・漢字②	<ul style="list-style-type: none"> ・描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉える。 ・場面と場面、場面と人物などの描写を結び付けて、作品を読み深める。 ・方言の特徴を知り、方言の役割について考える。 ・漢字の歴史をふまえ音と訓の成り立ちを理解する。
	5筋道を立てて ・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(記録文)	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解する。
二 学 期	6いにしえの心にふれる ・いろは歌(古文) ・古典の世界(解説文) ・蓬莱の玉の枝—「竹取物語」から(古文) ・今に生きる言葉(漢文)	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の文章に出会い、古典特有のリズムを味わう。 ・様々な種類の古典作品にふれ、現在のないものに思いを馳せる。 ・語句の意味や古文の表現の特徴に注意して物語の展開、あらすじを理解する。 ・故事成語とは、どのような言葉かを理解し、どんな由来があるのかを知る。
	7価値を見いだす ・「不便」の価値を見つめ直す(意見文) ・文法への扉②	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を取り出し、結び付けて要約する。 ・「主語・述語」「修飾・被修飾」などの関係について理解する。
	書き初め	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆を用い、行書の特徴を生かした文字を書く。
三 学 期	8読書に親しむ「考える人になろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に表れたものの見方から、自分のものの見方や考えを広げる。
	9自分を見つめる ・少年の日の思い出(小説)	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のものの見方、感じ方、生き方について自分の考えを持つ。
	・文法への扉③ ・隨筆二編(隨筆)	<ul style="list-style-type: none"> ・自立語と付属語について理解する。
	・言葉③ ・漢字③	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の展開や描写を基に、筆者の考え方や思いを捉える。 ・さまざまな表現技法を理解し、生活の中で表現する力を養う。
	・さくらのはなびら(詩)	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の成り立ちについて理解する。 ・詩の言葉や表現を読み味わい、作者の思いについて考える。

単元名・題材名		学習のねらい
一 学 期	・見えないだけ(詩) 1広がる学びへ ・アイスプラネット(小説) ・枕草子(古文) ・多様な方法で情報を集めよう ・漢字①	・1つ1つの語句に着目し、作者の思いを捉える。 ・登場人物の言動や心情を表す表現などに注意して、作品を読み取る。 ・昔の人のものの見方、感じ方にふれ、感性を豊かにする。 ・自分が伝えたい内容を明確にして、文章の構成を工夫する。 ・熟語の構成について理解する。
	2多様な視点から ・クマゼミ増加の原因を探る ・魅力的な提案をしよう ・文法への扉 1 硬筆	・文章全体と部分の関係や、文章と図表の関係に注意して読む。 ・プレゼンテーションについて理解する。 ・自立語と付属語、活用の有無について理解する。 ・硬筆ペンを用いて、横書きの特徴を生かした文字を書く。
	3言葉と向き合う ・短歌に親しむ(解説文) ・短歌を味わう(短歌) ・言葉の力 ・言葉① ・言葉を比べよう ・読書生活を豊かに	・言葉のもつ意味について考え、語感を磨く。 ・短歌について知り、表現の美しさを味わう。 ・作品に込められたものの見方や感じ方を捉え、自分の考え方を深める。 ・対義語や類義語、多義語の意味や用法に注意する。 ・似た気持ちを表す言葉の意味の違いを比べ、物語を書く。 ・本の紹介をしたり、感想を伝え合ったりする。
	4人間のきずな ・盆土産(小説) ・字のないはがき(隨筆) ・推敲 ・表現を工夫して書こう ・言葉 2 ・漢字 2	・人物描写の優れた小説を読み味わう。 ・家族のきずなや人間関係についての考えをもつ。 ・書いた文章を読み返し、言葉の使い方を理解する。 ・通信手段の選び方や、思いや要件を伝えるための工夫を考える。 ・敬語の種類や特徴について理解する。 ・同訓異字や同音異義語などの意味、用法を理解する。
	5論理を捉えて ・モアイは語る(論説文)	・意見を裏付けるための、適切な根拠の在り方について理解する。
	6いにしえの心を訪ねる ・平家物語 扇の的(古文) ・仁和寺にある法師(古文) ・漢詩の風景(漢詩)	・文語文の表現に慣れ、特徴をつかんで読み味わう。 ・古典の文章を朗読してその表現に慣れ、作品を読み味わう。 ・漢詩特有の調子を生かして読み味わう。
	7価値を語る ・君は「最後の晚餐」を知っているか ・根拠を明確にして意見を書こう ・文法への扉 2 ・読書に親しむ	・文章中に示された事実や根拠を確かめながら、筆者の意見を読み取る。 ・自分の意見と根拠を明確にし、文章構成を工夫しながら書く。 ・用言の活用について理解する。 ・読書を通して様々な状況やそこに生きる人の姿に触れ、自分の考えを深める。
	書き初め	・毛筆を用い、行書の特徴を生かした文字を書く。
二 学 期	8表現を見つめる ・走れメロス(小説) ・文法への扉 3 ・構成や展開を工夫して書こう ・言葉 3 ・漢字 3 ・国語の学びを振り返ろう ・木(詩)	・人間の生き方や考え方について自分の考えをもつ。 ・付属語について理解する。 ・これまでに読んだ物語や小説を参考にしながら、構成や展開を工夫して書く。 ・「話し言葉」と「書き言葉」の特徴を理解する。 ・送り仮名の付け方の原則を理解する。 ・1年間の学びを振り返り、国語を学ぶ意義を考える。 ・作者のものの見方を捉え、自分の考えを広げる。

	単元名・題材名	学習のねらい
一 学 期	・世界はうつくしいと(詩) 1深まる学びへ ・握手(小説) ・学びて時に之を習ふ(漢文) ・文章の種類を選んで書こう ・漢字①「熟語の読み方」	・詩に込められた作者の思いを読み取る。 ・言葉やエピソードから人物像をとらえ、内容を理解する。 ・漢文の特徴を理解し、論語の考え方を理解する。 ・文章の種類や紙面構成を工夫して、1冊の修学旅行記を書く。 ・熟語の読み方を知り、文章中で使えるようにする。
	2視点を広げて ・作られた「物語」を超えて(論説文) ・説得力のある構成を考えよう ・リオの伝説のスピーチ(資料) ・文法への扉①	・筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目し、主張を捉える。 ・自分が訴えたいことを見つけ、クラス全体にスピーチする。 ・実際のスピーチを読み、自分のスピーチに生かしたいことを考える。 ・これまでに学習してきた文法の知識を、表現や読解に生かす。
	硬筆	・硬筆ペンを用いて、行書の特徴を生かした文字を書く。
	3言葉とともに ・俳句の可能性 ・俳句を味わう ・言語①「和語・漢語・外来語」 <読書生活を豊かに> ・羊と鋼の森(小説) ・ためになるってどんなこと?	・筆者のものの見方、感じ方、表現の仕方を読み味わい俳句の世界に親しむ。 ・俳句に表現されている作者の思いなどを捉え、朗読する。 ・和語、漢語、外来語について理解する。 ・表現上の工夫を味わって読む。 ・場面や登場人物の設定の仕方を意識して読む。 ・筆者の考えを読み取り、自分の考えを深めよう。
	4状況の中で ・挨拶(詩) ・故郷(小説) ・論理の展開を整える ・言葉②「慣用句・ことわざ・故事成語」 ・漢字②「漢字の造語力」	・詩に表現されている内容と、現実の世界の在り方とを対応させながら読む。 ・情景や人物を描写する語句や表現に着目し、登場人物の心情や作者の意図を読み取る。 ・書いた文章を読み返し、文章全体を整える。 ・慣用句、ことわざ、故事成語の特徴や性質を知る。 ・漢字の造語力について知り、語彙を豊かにする。
	5自らの考えを ・人工知能との未来(論説文) ・人間と人工知能と創造性(論説文) ・初恋(詩)	・人間と人工知能との関わりについて述べた二つの文章を読み、自分の考えをまとめる。 ・詩における語句の効果的な使い方や表現の工夫を捉えよう。
	6いいにしえの心を受け継ぐ ・古今和歌集 仮名序(古文) ・君待つと(古文) ・夏草(古文) ・古典名句・名言集(古文・漢文)	・朗読を通して古文のリズムや響きを味わう。 ・和歌に表れた昔の人の心情や情景を読み取る。 ・文語文を表現のしかたや文体の特徴に注意して読み味わう。 ・古文と漢文、それぞれの名句・名言を味わう。
	7価値を生み出す ・誰かの代わりに(論説文) ・漢字③ ・文法への扉② <読書に親しむ> ・エルサルバドルの少女 ヘスース(隨筆)	・抽象的な概念を表す語句の文脈上の意味に注意しながら読む。 ・三年間で学習した漢字のまとめをする。 ・品詞の見分け方を理解する。 ・目的をもって本を読み。自分の考えを深めよう。
二 学 期	書き初め	・毛筆を用い、行書の特徴を生かした文字を書く。
	8未来へ向かって ・温かいスープ(隨筆) ・わたしを束ねないで(詩) ・三年間の歩みを振り返ろう	・現代社会の可能性や困難について考え、意見を持つ。 ・詩のリズムを味わい朗読する。 ・三年間の学びを振り返り、自分の考えを深めて文章にまとめる。

学習案内 第1学年 『社会』

1、学習目標 広い視野に立って世界を大観し、我が国の国土と歴史・文化に対する理解を深め、現代社会に生きる公民としての基礎・基本を養う。

2、学習内容と学習のポイント

	学習すること	学習のポイント
1 学 期	〈地理〉 ○世界のすがた ○世界各地の人々の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地球のすがたを概観すると共に、地球儀と世界地図を使い、地球上の位置を把握する事ができるようになる。 ・世界の地域区分について理解し、国々の位置について知る事ができるようになる。 ・各地の気候や地理的条件を知り、人々の生活が理解できるようになる。 ・気候区分を理解し、特色を理解できるようになる。
2 学 期	〈歴史〉 ○歴史のとらえ方 ○古代までの日本 ・文明のおこりと日本の成り立ち ・古代国家の歩みと東アジアの世界	<ul style="list-style-type: none"> ・時代区分や時代の移り変わりについて理解できるようになる。 ・人々の生活の始まり、国家の形成について理解できるようになる。 ・大陸の影響を受け国家のしくみが整えられ天皇や貴族の政治の展開を理解できるようになる。
	〈地理〉 ○世界の諸地域 ・アジア州 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州 ・オセアニア州 ○様々な地域の調査	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域に関する統計資料の分析、雨温図、主題図、写真の読み取りや関連づけなど地理的技能を身に付けられるようになる。 ・世界の諸地域の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などを概観し、資料を活用しながら基礎的・基本的事項が理解できるようになる。 ・世界の諸地域の地域的特色を、気候や地形の特色から理解できるようになる。 ・地域的特色と課題を多面的・多角的にとらえ理解できるようになる。
3 学 期	〈歴史〉 ○中世の日本 ・武士の台頭と鎌倉幕府 ・東アジア世界とのかかわりと社会の変動	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権が成立し、武士の支配がやがて全国に及び武家社会が発展していったという大きな流れを理解できるようになる。 ・モンゴルの襲来や日明貿易、琉球王国の成立など東アジアの情勢を理解できるようになる。
3、評価の観点と方法(①~③の観点を総合的に判断して評価します)		
① 知識・技能…テスト・小テスト・ワークシートなど(基礎的な語句の理解・資料を読み取る技能など) ② 思考・判断・表現…テスト・ワークシート・授業の取り組み・レポートなど (これまで学習したことと新しく学んだことを関連付けて考えることができる など)		
③ 主体的に学習に取り組む態度…授業態度・発言・レポート・ワーク・ノート (課題解決に向けて自分から取り組もうとしているか など)		

学習案内 第2学年『社会』

1. 学習目標

- 1 地理に興味を持って、積極的に調べてみよう。
- 2 社会科に関する基礎的な教養を身につけよう。

2. 学習内容と学習のねらい

	単元・題材名と学習内容	学習のねらい
1 学 期	地理 日本のさまざまな地域 ・日本の位置を調べよう ・日本の領域の特色を見てみよう ・各国の標準時と日本との時差 ・いろいろな見方で都道府県を見よ ・日本をいくつかの地域に分けよう 歴史 近世の日本・ヨーロッパ人の来航の影響とその背景 ・兵農分離と朝鮮侵略、桃山文化 ・江戸幕府の成立と支配のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国土の位置および領域の特色と変化を世界的な視野からとらえ、日本の現状を位置と領域の面から学習します。 ・経度の違いが、私たちの生活にどのように影響するのか、標準時と時差のしくみをふまえて、地球上における世界各地との位置関係をとらえられるようにします。 ・都道府県と県庁所在地の名称と位置を学習します。また、日本の略地図の描き方を身に付けます。 ・日本の地域区分を学習します。 ・ヨーロッパ人の来日の背景とその影響を考えられるようにします。 ・織田信長、豊臣秀吉の政権や江戸幕府の統一事業の過程と特色を学習します。
2 学 期	・さまざまな身分と暮らし ・鎖国と鎖国後の対外関係 ・産業の発達と幕府政治の動き ・産業の発達 ・都市の繁栄と元禄文化 ・享保の改革と社会の変化 ・幕府や諸藩の改革 ・新しい学問と化政文化 ・外国船の接近と天保の改革 地理 世界から見た日本の姿・世界の地形 日本の諸地域 ・九州地方・中国・四国地方・近畿地方 ・中部地方・関東地方・東北地方	<ul style="list-style-type: none"> ・身分制度とその不合理性について学習します。 ・江戸時代の社会のしくみと、貨幣経済の浸透による変化およびそれに対する幕府の対応、外国船の出現による幕府政治の動搖にいたる歴史の動きを学習します。 ・世界的視野から見た日本の地域的特色や、日本全体の視野から見た国内の諸地域の特色を「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」の四つの観点からとらえる活動を通して、日本の国土の特色を大観させる。 ・四つの観点から、世界と日本、日本の国内の地域間を比較し関連付けて考察することで、日本の地域的特色を多面的・多角的にとらえる視点や方法を身に付けさせる。
3 学 期	歴史 開国と近代日本の歩み・近代革命の時代 産業革命と欧米諸国 ・ヨーロッパのアジア侵略 ・開国と不平等条約 ・江戸幕府の滅亡 ・新政府の成立 ・維新の三大改革 ・立憲国家の成立 ・日清戦争 日露戦争 ・韓国と中国 ・産業革命の進展	<ul style="list-style-type: none"> ・広い視野から日本全体の地域的特色をまとめられますようにします。 ・近代の欧米列強の動きを大きくとらえられるようにします。 ・また開国～明治維新～日清日露戦争の歴史の動きをとらえ、特に開国による影響や明治政府がどのような国づくりを目指したのか、当時の日本人がどのように考え判断し行動したのかを学習します。

3. 評価の観点と方法 (①~③の観点を総合的に判断して評価します)

- ① 知識・技能…テスト・小テスト・ワークシートなど(基礎的な語句の理解・資料を読み取る技能など)
- ② 思考・判断・表現…テスト・ワークシート・授業の取り組み・レポートなど
(これまで学習したことと新しく学んだことを関連付けて考えることができる など)
- ③ 主体的に学習に取り組む態度…授業態度・発言・レポート・ワーク・ノート
(課題解決に向けて自分から取り組もうとしているか など)

学習案内 第3学年『社会』

<p>1. 学習目標 社会事象に関する基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的・平和的な国家、社会の形成者として、必要な公民的資質の基礎を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、積極的に考え、まとめ、発言しよう。 新聞・ニュースなどを見て政治や経済、国際社会の出来事に关心をもとう。 現代社会の抱える問題について調べ、自分なりの考え方を持てるようにしよう。 地理、歴史の総復習をしていく。 			
<p>2. 学習内容と学習のねらい</p>			
1 学 期	単元名	学習内容	学習のねらい
	地理身近な地域の調査 歴史 開国と近代日本の歩み 二度の世界大戦と現代の日本	地形図の約束 産業革命と欧米諸国 ・日清戦争 日露戦争 韓国と中国 ・産業革命の進展・第一次世界大戦と日本 ・国際協調の時代 アジアの民族運動 ・大正デモクラシー 民衆運動の高まり ・新しい生活と文化 世界恐慌とブロック経済 ・欧米の情勢と日本 日本の中国侵略 ・日中全面戦争 第二次世界大戦 戦時下の生活 戦争の終結・占領と日本の民主化 ・二つの世界とアジア 国際社会に復帰する日本 ・日本経済の発展 國際関係の変化	<ul style="list-style-type: none"> 地形図の約束を知り、身近な地域に关心を持ちます。 第一次世界大戦前後の国際情勢を背景に、日本の国民の政治的自覚の高まりや対外関係を理解させる。 昭和初期から第二次世界大戦終結までの日本の政治・経済・外交の動きなどを、東アジア諸国との関係や欧米諸国との動きに着目させ、経済の混乱から社会問題、軍部の台頭、戦争の勃発から敗戦までの経過を理解させる。 第二次世界大戦後、日本の民主化と再建、国際社会への復帰について、世界の動きと関連させながら理解させる。
2 学 期	公民 人間の尊重と日本国憲法	1 ちがいのちがい 2 人権の歴史 3 日本国憲法の基本原理 4 日本の平和主義 5 基本人権と個人の尊重 6 平等権と共生社会 7 自由権 8 社会権 9 人権保障を確かなものに 10 新しい人権 11 グローバル社会と人権	<ul style="list-style-type: none"> 家族や社会の一員として、個人が社会の一員として個人が社会とどのように拘わりながら暮らしているか考える。 日本国憲法の基本的原則について理解を深め、具体的な生活の中で、自由・権利と責任・義務について考える。
	現代の民主政治と社会	1 市長になって考えてみよう 2 民主主義と政治 3 政治参加と選挙 4 政党と政治 5 マスメディアと世論 6 国会の地位としくみ 7 国会の働き 8 行政のしくみと内閣 9 行政の役割と行政改革 10 裁判所のしくみと働き 11 裁判の種類と人権 12 裁判員制度と司法制度改革 13 三権の抑制と均衡 14 私たちの生活と地方自治 15 地方自治の仕組み 16 地方財政の仕組みと課題 17 住民参加の拡大と私たち	<ul style="list-style-type: none"> 地方政治の考え方やしくみ、国会を中心とする我が国の民主政治の考え方としくみの基本を地域住民、主権者の立場から理解する。 身近で具体的な事例を通じて現代日本の政治に対する関心を高め、将来の主権者としての自己を自覚する。
3 学 期	わたしたちのくらしと経済	1 コンビニエンスストアの経営者になってみよう 2 わたしたちの消費生活 3 契約と消費生活 4 消費者の権利を守るために 5 消費生活を支える流通 6 資本主義経済と企業 7 株式会社の仕組みと企業の社会的責任 8 労働の意義と労働者の権利 9 働きやすい職場を築くために 10 市場経済のしくみ 11 価格の働き 12 私たちの生活と金融機関 13 貨幣の役割と金融 14 景気と金融政策 15 私たちの生活と財政 16 政府の役割と財政の課題 17 社会保障のしくみ 18 少子高齢化と財政 19 公害の防止と環境の保全 20 グローバル化する日本経済 21 豊かさと経済	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活を中心に経済活動の意義をふまえ、市場経済の基本的な考え方や現代の生産のしくみのあらましを理解する。 市場経済にゆだねられない問題として国や公共機関が果たしている役割について考える。 身近で具体的な例を通して現代の経済に関心をもち、経済についての考え方の基礎を養う。
	地球社会とわたしたち	1 國際社会における國家 2 國際連合のしくみとはたらき 3 地域主義の動き 4 新興國の台頭と経済格差 5 地球環境問題 6 資源・エネルギー問題 7 貧困問題 8 新しい戦争 9 文化的多様性の尊重 10 日本の外交の現状と課題 11 世界平和のために	<ul style="list-style-type: none"> 国際的な相互依存関係の深まりの中で、地球的人類的な課題を理解し、各国・国民の協力の重要性についての認識を深める。 世界平和の実現と人類の福祉の拡大のために国際社会における日本の役割について考える。
<p>3. 評価の観点と方法 (①~③の観点を総合的に判断して評価します)</p>			
<p>① 知識・技能…テスト・小テスト・ワークシートなど(基礎的な語句の理解・資料を読み取る技能など)</p>			
<p>② 思考・判断・表現…テスト・ワークシート・授業の取り組み・レポートなど (これまで学習したことと新しく学んだことを関連付けて考えることができるなど)</p>			
<p>③ 主体的に学習に取り組む態度…授業態度・発言・レポート・ワーク・ノート (課題解決に向けて自分から取り組もうとしているかなど)</p>			

令和4年度 1年 数学の学習

学期	単元名	単元のねらい(目標)	主な学習内容
一学期	正負の数	正負の数や絶対値に関する意味を理解する。	正の符号、負の符号、正の数、負の数、自然数、原点、絶対値、不等号
	加法と減法	正負の数の加減の計算の方法を理解し、その計算ができる。	正負の数の加法・減法、加法の交換法則、加法の結合法則、加法と減法の混じった式の計算
	乗法と除法	正負の数の乗除の意味や累乗の意味を理解し、四則の混じった計算ができる。	正負の数の乗法・除法、乗法の交換法則、乗法の結合法則、累乗、指数、逆数の意味、正負の数の四則の混じった計算、分配法則
	数の四則と集合	数の範囲によって計算の可能性に違いがあることを理解できる。	数の範囲と計算の可能性
	文字を使った式	文字を使った式の積や商の表し方のきまりや、代入の意味を理解し、具体的な数量を文字式で表すことができる。	数の拡張、自然数を素数の積で表すこと、文字使用のきまり、いろいろな数量を文字式に表すこと、文字式の表している数量を読みとること、代入と式の値の意味
	文字式の計算	1次式の計算方法を理解し、1次式の加減や1次式と数の乗法の計算ができる。	項、係数と1次式の意味、1次式の加減、1次式と数の乗法、1次式のいろいろな計算、図形についての公式、πの意味とπを使った公式
二学期	関係を表す式	数量の相等・大小関係を式に表し、その意味を読み取ることができる。	数量の関係や法則などの関係を等式や不等式に表すこと
	方程式	等式の性質、方程式、方程式の解、移項、1次方程式などの意味を理解し、解くことができる。	方程式とその解、および方程式を解くことの意味、等式の性質、移項の意味、移項の考え方を使って方程式を解くこと、かっこをつくす形の方程式を解くこと、小数や分数の系数をもつ方程式の解き方
	1次方程式の利用	いろいろな問題を方程式を活用して解決することができます。	問題解決のために方程式を用いること、文章題における解の吟味、方程式を使って問題を解くときの手順
	比と比例式	簡単な比例式を解くことができる。	比と比の値
	関数	関数関係の意味が理解できる。	簡単な比例式を解くこと
	座標・比例の式とグラフ	比例の意味を理解し、比例の関係を式で表すことができる。	関数関係の意味、変数・変域の意味
	反比例の式とグラフ	反比例の意味を理解し、反比例の関係を式で表すことができる。	点の座標の意味、比例・比例定数・比例の式を使って具体場面の問題を解くこと、 $y=a/x$ のグラフ
	比例と反比例の利用	具体的な事象の問題を、比例や反比例の考え方や比例のグラフを利用して解くことができる。	反比例・比例定数の意味、反比例の式を使って具体場面の問題を解くこと、 $y=a/x$ のグラフ
	直線と図形	2直線の位置関係を表すことができる。	比例、反比例の見方をもとにして具体的な事象の中の変化する量について調べること、比例や反比例の考え方やグラフを利用して、具体場面の問題を解くこと
	図形の移動	線対称、点対称、線対称の軸、対称の中心の意味を理解する。	2直線の位置関係や距離、 \angle や Δ の記号の使い方
三学期	基本の作図	作図の意味、基本の作図の手順を理解し、基本の作図をすることができる。	線対称、点対称、合同、垂直、平行、中点の意味、弧、弦、おうぎ形、中心角、多角形、正多角形
	基本の作図の利用	図形の移動(平行、回転、対称)の意味と基本の性質を理解できる。	垂線、垂直二等分線、角の二等分線の意味とその作図、接線の性質とそれを利用した接線の作図、いろいろな条件の図を基本的な作図を使って求めること
	円とおうぎ形	おうぎ形のこの長さと面積の求め方を性質を理解しする。	図形の移動(平行、回転、対称)の意味と基本の性質
	いろいろな立体	多面体や角柱・円柱・円錐など、立体の名称について理解する。	円の意味、おうぎ形の弧の長さや面積、円の接線
	空間内の平面と直線	空間图形のいろいろな位置関係を理解する。	多面体や正多面体の意味、角柱、円柱、角錐、円錐の意味とその特徴、展開図・見取り図・投影図
評価方法	立体の表面積と体積	積や体積、弧の長さや面積を求めることができる。	直線や平面の平行と垂直、ねじれの位置、面の動き、立体の展開図、立体の構成、回転体
	球の表面積、体積	球の表面積、体積を求めることができます。	表面積、側面積、底面積、おうぎ形の弧の長さと面積、角柱、円柱、角錐、円錐の体積を求めること
	ヒストグラムと相対度数	ヒストグラムや相対度数、範囲、累積度数や代表値の必要性と意味を理解し、これらを用いて問題を解決する方法について理解する。	球の表面積、体積
	データに基づく確率	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解する。	ヒストグラム、相対度数、範囲、累積度数などの必要性と意味、データの分布の特徴や傾向を読み取る 代表値の必要性と意味
	観点	知識・技能	思考・判断・表現
具体的評価項目	○数量・図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、処理できる。 ・ノート・発言 ・定期テスト ・小テスト ・教え合い	○事象を数量、図形などで数学的に考察し表現する仕方を身につけている。 ・ノート・発言 ・定期テスト ・小テスト ・教え合い	○数学的な事象に関心を持ち、それらの必要性や求め方を考えたり活用したりしようとしている。 ・ノート・発言・宿題 ・ワーク・テスト直し ・計算練習の取り組み ・教え合い

令和4年度 2年 数学の学習

学期	単元名	単元のねらい(目標)	主な学習内容
一学期	式の計算	文字を用いた数式の四則計算が数と同じようにできることを理解するとともに、また正しく計算ができる。	単項式、多項式、項、次数、1次式、同類項の意味 同類項をまとめる計算 多項式と数との乗法と除法 多項式のいろいろな計算
	文字式の利用	事象の中に数量の関係を見いだし、それを文字を用いて式に表現し、活用できる。目的に応じて、式を変形できる。	式による説明 等式の変形
	連立方程式	2元1次方程式やこれらを連立さ	2元1次方程式、連立方程式、連立方程式の解の意味 加減法
二学期	1次関数とグラフ	事象の中に1次関数の関係にある2量に着目し、式、値の変化、グラフなどを通してその特徴を理解する	事象の中から1次関数を見いだし、式に表すこと 1次関数の意味、変化の割合の意味 1次関数のグラフの傾きと切片、増減とグラフ グラフから1次関数の式を求める xの変域に対応するyの変域 いろいろな事象から1次関数を求めるこ
	1次関数と方程式	方程式やその方程式が表すグラフについて理解する。2直線の交点と、2直線を表す2つの式を連立方程式と見なしたときの解とが一致することを理解する。	2元1次方程式のグラフと1次関数のグラフ $a x + b y + c = 0$ の形の方程式のグラフをかく 連立方程式の解とグラフの交点の座標 $y = k \cdot x + h$ のグラフの意味 グラフを利用して事実問題を解く
	1次関数の利用	1次関数の式を活用して問題を解決する方法を理解する。	1次関数の関係を表・式・グラフを用いて表し、問題を解決する
	角と平行線	基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線の性質をもとにしてそれらを確かめる。	対頂角の意味 同位角と錯角の意味 平行線の性質 平行線になるための条件 三角形の内角と外角の関係 多角形の外角と内角 多角形の内角の和 多角形の外角の和 証明の意味
	合同な図形	平面図形の性質を三角形の合同条件などをもとにして確かめ、証明する必要性を理解し、論理的に考察する。	図形の合同の意味と合同な図形の性質 三角形の合同条件 仮定と結論の意味 証明のすすめ方
三学期	三角形	平面図形の性質を三角形の合同条件などをもとにして確かめ、論理的に考察する。	二等辺三角形の頂角、底辺、底角の意味 二等辺三角形の定義 定義、定理の意味 定理の逆 二等辺三角形の底角の性質 二等辺三角形の頂角の二等分線の性質 二等辺三角形になるための条件 正三角形 直角三角形の合同条件
	四角形	平行四辺形の性質を、平行線の性質や三角形の合同条件などをもとにして確かめる。	平行四辺形の定義・性質 平行四辺形の性質を利用した証明 平行四辺形になるための条件 底辺に平行な直線上に頂点をもつ三角形の面積 面積を変えないで多角形を変形すること
	場合の数と確率	具体的な事象について観察や実験を通して、確率について理解する。確率の意味を理解し、合理的に確率を求める。	実験や観察の結果求められる確率 樹形図や表の利用 場合の数から計算によって確率を求める いろいろな確率の求め方
評価方法	箱ひげ図とデータの活用	・具体的なデータを用いて、四分位数と箱ひげ図、四分位範囲について理解する。 ・箱ひげ図の活用法、ヒストグラムとの使い分けを学ぶ	四分位数の理解とそれによって箱ひげ図が作られていることの理解、箱ひげ図によるデータの整理の仕方 四分位範囲の理解、箱ひげ図を利用し課題を解決すヒストグラムとの使い分け
	観点	知識・技能	思考・判断・表現
具体的評価項目	○数量・図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、処理できる。 ・ノート・発言 ・定期テスト ・小テスト ・教え合い	○事象を数量、図形などで数学的に考察し表現する仕方を身につけている。 ・ノート・発言 ・定期テスト ・小テスト ・教え合い	○数学的な事象に関心を持ち、それらの必要性や求め方を考えたり活用したりしようとしている。 ・ノート・発言・宿題 ・ワーク・テスト直し ・計算練習の取り組み ・教え合い

令和4年度 3年 数学の学習

学期	単元名	単元のねらい(目標)	主な学習内容
一学期	多項式の計算	分配法則や乗法公式を的確に能率的に活用し、式を展開することができる。	分配法則を使った(単項式)×(多項式)、(多項式)÷(単項式)の計算 四則の混じった計算 分配法則を使った(多項式)×(多項式)の計算 展開の意味
	因数分解	分配法則や乗法公式をもとにして、多項式を因数分解することができる。	乗法公式を使って式を展開すること 乗法公式を式計算に利用すること 根号をふくむ式を乗法公式を使って計算すること 因数、素数、素因数、素因数分解の意味 数を素因数に分解すること 共通因数や公式を利用し、式を因数分解すること 因数分解を数計算に応用すること 式による証明
	式の計算の利用	文字を使って一般的に説明することの意味を理解する。	
	平方根	平方根の意味と根号を用いた数の表し方について理解する。さらに平方根の大小関係が判断できるようになり、平方根の近似値について理解する。また素数や素因数分解について学び、数を分解することを理解する。	平方根の意味 数の平方根を求めること 平方根に関する基本性質 $\sqrt{\cdot}$ の意味とその使い方 平方根の大小 有理数 無理数
	真の値と近似値、根号を含む式の計算	近似値や誤差、有効数字の意味を理解する。平方根の性質を使って、平方根の簡単な四則計算ができるようになる。また、根号を含んだ式のいろいろな問題を解決することができようになる。	近似値 誤差 有効数字 等の関係 根号をふくむ式の乗法と除法 公式を利用した数の変形 分母の有理化 根号をふくむ式の加法・減法 根号をふくむ式を分配法則を使って計算すること 平方根の具体的な場面での活用
	2次方程式の解き方	2次方程式とその解の意味を理解し、2次方程式の解法を、既習の因数分解や平方根を求める方法と関連づけて解くことができる。	2次方程式の意味・2次方程式の解の意味 因数分解を使って2次方程式を解くこと 平方根の考え方を使って2次方程式を解くこと 完全平方式をつくって2次方程式を解くことができることを知ること 解の公式
	2次方程式の利用 関数 $y=ax^2$	2次方程式を利用して、いろいろな問題を解決することができる。 関数 $y=ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見いたし表現し考察する。変化の割合をもとに変化の様子を調べ、関数 $y=ax^2$ についての理解を深める。また、具体的な事象の考察に関数 $y=ax^2$ を活用し、問題を解決する。	問題解決のために2次方程式を用いること いろいろな問題例とその立式における考え方 事象の中から $y=ax^2$ の関数係にある数量を見いだし式に表すこと 関数 $y=ax^2$ の意味 $y=x^2$ のグラフ $y=ax^2$ のグラフとその特徴 变域の対応 変化の割合の意味とその求め方 変化の割合のグラフにおける意味 $y=ax+b$ と $y=ax^2$ の比較 物線と直線を利用して問題を解くこと 関数 $y=ax^2$ を利用して事実問題を解くこと (例) 鉄道の運賃など
二学期	いろいろな関数 相似	具体的な事象の中には既習の関数関係以外のものがあることを理解する。	拡大図・縮小図を用いたりして、相似の意味や相似な图形の性質について理解する。また、三角形の相似条件を使って图形の性質を調べる。中点連結定理について理解するとともに、相似の考え方を利用して、事実問題を解決することができる。
	平行線と比	平行線と比	相似な图形の性質 相似の中心と相似の位置 相似比 比の性質 三角形の相似条件 三角形の相似条件を使って証明すること 相似を利用して距離や高さを求める
	三平方の定理	直角三角形の3辺の長さの間に、三平方の定理を見いだすことができる。また、三平方の定理の逆の意味を理解する。	三角形の1辺に平行な直線と他の2辺に関する性質 中点連結定理 平行線と線分の比 平行線と線分の比の性質の利用 中点連結定理 相似な图形の面積比 相似な立体の体積比 三平方の定理 三平方の定理を使って辺の長さを求める 三平方の定理の逆
	三平方の定理の利用 円の性質	三平方の定理を平面図形や空間図形の計量に利用して、問題を解決する。 円周角と中心角の関係を勘め、それを用いて論理的に考察する。	特別な直角三角形の辺の長さの比 三角形の高さ、円の接線、弦の長さ、2点間の距離、直 方体の対角線、角錐や円錐の体積を求めること 三平方の定理の活用 円周角の意味 円周角と中心角の間の関係 円周角の定理の逆 接線の作図や証明への利用
三学期	標本調査	全数調査が困難な場合があることを知り、標本調査の必要性や意味を理解する。また簡単な標本調査を行い集団の傾向を説明することができる。	標本調査の必要性や意味 方法 抽出の方法 標本と母集団の関係の考察 標本調査から母集団の傾向を推測する
	観点	知識・技能	思考・判断・表現
	具体的評価項目	○数量・图形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、処理できる。 ・ノート・発言 ・定期テスト ・小テスト ・教え合い	○事象を数量、图形などで数学的に考察し表現する仕方を身につけている。 ・ノート・発言 ・定期テスト ・小テスト ・教え合い
評価方法			○数学的な事象に関心を持ち、それらの必要性や求め方を考えたり活用したりしようとしている。 ・ノート・発言・宿題 ・ワーク・テスト直し ・計算練習の取り組み ・教え合い

第1学年「理科」の学習

狭山市立山王中学校 令和4年度

学期	単元名	項目	単元のねらい（目標）	主な学習内容
1 学 期	自然観察の基礎 6	観察の基本 生物の観察（6）	自然観察の基礎基本を身につけ、中学理科の導入とする。	・観察の基礎（情報収集の方法・観察の基本・記録の方法・単位の考え方）を身につける（スケッチの仕方、顕微鏡の使い方を理解する）
	いろいろな生物と その共通点 2 2 + 1	1 生物の分類（2） 2 植物の分類（10） 3 動物の分類（10）	身近な生物についての観察・実験を通して、生物の調べ方の基礎を身につけるとともに、生物のからだのつくりとはたらきを理解させ、生物の種類やその生活についての認識を深める。	植物の分類 被子植物の花のつくりと分類 裸子植物の花のつくりと分類 花が咲かない植物の分類（シダ・コケ等） 動物の分類 セキツイ動物の特徴と分類 無脊椎動物の特徴と分類
	実験操作の基礎 6		実験に必要な基礎操作を身につける	・実験操作の基本（基本単位の測定・加熱器具の取り扱い・薬品、ガラス器具の取り扱い・危険回避の方法）を身につける
2 学 期	身のまわりの物質 2 4 + 1	1 身のまわりの物質とその性質（8） 2 気体の性質（4） 3 水溶液の性質（6） 4 物質の姿と状態変化（6）	身のまわりの物質についての観察や実験を通して、固体・液体・気体の性質、物質の状態変化について理解するとともに、物質の性質や変化の調べ方の基礎を身につける。	身の回りの物質の性質を様々な方法で調べる（密度、電気の通りやすさ、加熱など） 金属、非金属の識別 粉末を識別する実験 気体を発生させて捕集し、性質を調べる実験 水溶液の粒子モデル化 水溶液から溶けている物質を取り出す（濾過） 溶解度と再結晶の操作と考察 状態変化に伴う、体積や質量の変化を調べる 沸点や融点の測定・混合物の分離 蒸留
	身のまわりの 現象 2 3 + 1	1 光の世界（10） 2 音の世界（5） 3 力の世界（8）	身近な事物・現象についての観察・実験を通して、波動（光・音）の規則性について理解するとともに、これらの事象を日常生活と関連づけて科学的にみる見方や考え方を養う。 身近な事物・現象についての観察・実験を通して、力の規則性について理解するとともに、これらの事象を日常生活と関連づけて科学的にみる見方や考え方を養う。	光の反射や屈折の規則性を調べる 凸レンズの働き、像のでき方を調べる 音が発生している物体が震動していることを確かめる 音の大きさや高さを決めているものを調べる 力のはたらきを調べる実験をする 力の割り方 力とはねの伸び 力の表し方 作図の方法 重さと質量の違い 力のつり合い（2力のつり合いの実験と作図）
3 学 期	大地の変化 2 3 + 1	地層や岩石の観察（2） 1 火を噴く大地（7） 2 動き続ける大地（5） 3 地層から読み取る大地の変化（9）	大地の活動の様子や身近な地形・地層・岩石などの観察を通して、地表に見られる様々な事物・現象を大地の変化と関連づけてみる見方や考え方を養う。	地形や地層・岩石の観察方法を学ぶ ・火山の形、活動の様子、およびその噴出物を調べる。 ・火山岩と深成岩の観察を行う。 ・プレートテクトニクスの考えを知り、日本付近で起る地震の特徴を探る。 ・断層等の構造について調べる。 ・野外で地形や地層を観察する。 ・地層のでき方を考察し、重なり方の規則性を調べる。（褶曲・整合不整合） ・堆積岩や化石を観察し地質年代について知る。
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	評価規準	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験に関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけることができたか。	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しているか。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしているか。
	具体的評価項目	○実験・観察の取り組み ○定期テスト ○小テスト 単元末テスト パフォーマンステスト ○ワークシート・レポートの内容 等	○小テスト（記述問題） ○単元末テスト ○定期テスト ○授業ノート ○ワークシートの内容 等	○実験・観察の取り組み ○授業への取り組み ○ワークの提出 ○ワークシート・レポートの内容 等

※理科室の使用の都合や観察に使用する生物の関係で、時期が多少前後したり、入れ替わったりすることがあります。

第2学年「理科」の学習

狭山市立山王中学校 令和 4 年度

学期	単元名	項目	単元のねらい（目標）	主な学習内容
1 学 期	化学変化と 原子分子 3 4 + 1	1 物質の成り立ち（8）		加熱や電流による分解の実験を行う 物質は原子・分子からできていることを理解し、原子は記号で表されることを知る 2種類の物質が結びつく実験を行う 化学変化を化学式で表す（化学反応式） 燃焼、酸化と還元
		2 物質どうしの化学変化（8）	化学変化についての、実験・観察を通して、化合・分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解させるとともに、これらの事象を、原子・分子のモデルと関連づけてみる見方や考え方を養う。	質量保存の実験をする（質量保存の法則） 化合する割合を調べる実験を行う 化学変化と熱の発生
2 学 期	生物のからだのつくり とはたらき 3 5 + 1	3 酸素がかわる化学変化（6）		
		4 化学変化と物質の質量（8）		
		5 化学変化とその利用（4）		
		1 気象の観測（8）	身近な気象の観察・観測を通して、天気の変化の規則性に気づかせるとともに、気象現象について、それが起きる仕組みと規則性についての認識を深める。	・校内や校庭などで気象観測を行う。 ・天気図についてに基本的技能を身につける ・雷雨、台風の知識
		2 植物のからだのつくりとはたらき（10）	生物（植物・動物）についての観察・実験を通して、細胞の働き・生物のからだのつくりと働きを理解させ、生命活動への認識を深める。	いろいろな細胞（水中の微生物等）の観察を行い、細胞の基本的なつくり 植物と動物の細胞を顕微鏡で観察し、細胞のつくりの特徴を理解する。 葉の働きと光合成 光合成と物質の関係 植物と呼吸 植物の維管束（葉や茎のつくり） 植物と水の関係 消化系や循環系・血液の循環・排出系についての観察や実験を行う。（だ液の糖化実験など） 神経系、運動器官のつくりと特徴を調べる。目や耳、鼻、皮膚、舌などの感覚器官の特徴を調べる。 骨格と筋肉のはたらき
3 学 期	生物のからだのつくり とはたらき 3 5 + 1	3 動物のからだのつくりとはたらき（12）		
		4 刺激と反応（5）		
		1 気象の観測（7）		大気圧と圧力 気圧とは 気圧と風 水蒸気量の変化と温度の関係 飽和水蒸気量
	天気とその変化② 2 2 + 1	2 雲のでき方と前線（6）	身近な気象の観察・観測を通して、天気の変化の規則性に気づかせるとともに、気象現象について、それが起きる仕組みと規則性についての認識を深める。	霧や雲の発生についての観察や実験を行う 露点の実験 前線の通過の際の気象要素や天候の変化を天気図や気象データーから調べる 温暖前線、寒冷前線について知る 数日間の天気図などから天気を予測する 日本の天気の特徴 季節風 海陸風 天気の変化の予測 大気の動きと海洋の影響
		3 大気の動きと日本の天気（9）		
		1 静電気と電流（6）		静電気を発生させる実験を行う（電子を含む） 真空放電と陰極線、電子の存在 放射線の性質
	電気の世界 3 4 + 1	2 電流の性質（15）	電流回路についての実験・観察を通して、電流と電圧との関係及び電流の働きについて理解させるとともに、日常生活と関連づけて電流と磁界についての初步的な見方や考え方を養う。	回路図をもとに直列回路と並列回路を組み、電流と電圧の大きさを調べる 電流と電圧の関係を調べる（オームの法則） 電流によって発生するエネルギー（熱や光）を調べる 磁石や電流の回りの磁界を調べる 磁界の中に置いたコイルに働く力を調べる モーターの原理 コイルと磁石で電流を発生させる実験をする 発電機の原理 直流と交流
		3 電流と磁界（13）		
		観 点	知識・技能	思考・判断・表現
	評価規準	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけることができたか。	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しているか。	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしているか。
	具体的評価項目	○実験・観察の取り組み ○定期テスト ○小テスト 単元末テスト パフォーマンステスト ○ワークシート・レポートの内容 等	○小テスト（記述問題） ○単元末テスト ○定期テスト ○授業ノート ○ワークシートの内容 等	○実験・観察の取り組み ○授業への取り組み ○ワークの提出 ○ワークシート・レポートの内容 等

※理科室の使用の都合や観察に使用する生物の関係で、時期が多少前後したり、入れ替わったりすることがあります。

※気象情報の活用のために年間を通じて特に気象分野を扱う場合があります。

第3学年「理科」の学習

狹山市立山王中学校 令和4年度

学期	単元名	項目	単元のねらい（目標）	主な学習内容
1 学 期	生命の連續性 2 2 + 1	1 生物の成長と生殖（8） 2 遺伝の規則性と遺伝子（8） 3 生物の多様性と進化（6）	身近な生物についての観察・実験を通して、細胞レベルで見た生物のつくりと生産について理解させるとともに、親の形質が子に伝わる現象について認識させる。また、生物の多様性と進化についての関係性について認識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・体細胞分裂の観察を行う。 ・有性生殖と無性生殖の特徴を理解する。 ・遺伝の規則性と遺伝子・DNA
		1 自然のなかの生物（6） 2 自然環境の調査と保全①（2）	自然における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解し、自然と人間の関わり方について総合的に見たり、考えたりすることができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系の成り立ちと物質の循環 ・生態系における生物の役割（菌類、細菌類のはたらきを調べる） ・自然界のつり合いの変化・外来種 ・自然環境を保全することの重要性を考える。
		1 水溶液とイオン（8） 2 酸、アルカリとイオン（10） 3 化学変化と電池（10）	水溶液の電気伝導性や電気分解を調べる実験を行い、イオンの存在や原子の成り立ち、電池の仕組みを理解する。 酸とアルカリの水溶液の特性を調べる実験・中和反応を行い、仕組みを理解する。 中和を利用した河川や土壌の改良などを取り上げ日常生活との関連を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶液の電気伝導性 ・原子の成り立ちとイオン ・化学変化と電池 ・酸アルカリとイオン ・中和と塩
2 学 期	運動とエネルギー 3 0 + 1	1 物体の運動（10） 2 力のはたらき方（8）	身のまわりの物体の運動の観察・実験を通して、運動の調べ方の基礎を身につけるとともに、力と運動についての基本的な規則性を理解し、これらの事象を日常生活と関連づけて、運動の初步的な見方や考え方を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオカメラやストロボ写真を使って、物体の運動のようすを観察する。 ・記録タイマーの使い方を理解する。 ・斜面を下る台車の運動を調べる。 ・摩擦の少ない平面での台車の運動を調べる。 ・2力のつり合い、力の合成分解 ・慣性の法則、作用反作用の法則、力と運動の規則性 ・仕事とエネルギー・仕事率 ・位置エネルギーと運動エネルギーについて理解する。（力学的エネルギーの保存の法則） ・いろいろなエネルギーの移り変わりを調べる。
		3 エネルギーと仕事（12）	エネルギーに関する観察・実験を通して、エネルギーの基礎について理解するとともに、これらの事象を日常生活と関連づけて科学的な見方や考え方を養い、エネルギーに対する興味・関心を高める。	
		1 地球の運動と天体の動き（12） 2 月と金星の見え方（6） 3 宇宙の広がり（6）	身近な天体の観察を通して、地球の運動について考察させるとともに、太陽の特徴及び太陽系について認識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽、太陽系の特徴を理解する。 ・銀河系とその他の天体 ・透明半球を使った太陽の日周運動の観察。 ・天体の日周運動を地球の自転と関連づける。 ・四季の星座の移り変わり、季節による昼夜の長さを地球の公転や地軸の傾きと関連づける。 ・月の運動（見え方・日食・月食） ・惑星（金星）の見え方
3 学 期	地球と私たちの 未来のために 16 + 1	2 自然環境の調査と保全②（2） 3 科学技術と人間（7）	自然がもたらす恩恵と災害を知り、自然と人間の関わり方について総合的に見たり、考えたりすることができるようになる。 エネルギー資源の利用と環境保全との関連や科学技術の利用と人間生活との関わりについて認識を深めるとともに、日常生活と関連づけて、科学的に考える態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然がもたらす恩恵について調べる。 ・自然が過去に起こした災害を知り、今後の発生についての予測と対応について考える。 ・様々な物質の利用、プラスチックの性質・分別 ・エネルギー資源の利用・発電・放射線 ・情報通信技術、物質資源の有効利用、新素材、循環型社会の構築
		観点	知識・技能	思考・判断・表現
		評価標準	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけることができたか。	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しているか。
具体的評価項目	○実験・観察の取り組み ○定期テスト ○小テスト 単元末テスト ○パフォーマンステスト ○ワークシート・レポートの内容 等	○小テスト（記述問題） ○単元末テスト ○定期テスト ○授業ノート ○ワークシートの内容 等	○実験・観察の取り組み ○授業への取り組み ○ワークの提出 ○ワークシート・レポートの内容 等	

※理科室の使用の都合や観察に使用する生物の関係で、時期が多少前後したり、入れ替わったりすることがあります。

※天文現象の活用のために年間を通じて特別に天体分野を扱う場合があります。

音楽科の学習 第1学年

1 音楽科の学習のねらい

- | | |
|-----|--|
| ①歌唱 | ・歌唱に親しみ、歌詞を理解して歌い方を工夫できるようにする。
・混声合唱の学習を通して、曲の構成や音の重なりを理解し、合唱の良さを味わえるようにする。 |
| ②器楽 | ・アルトリコーダーや和楽器などに親しみ、基本的な演奏技術を身につける。 |
| ③創作 | ・表現したいイメージを持ち、リズムの特徴を生かしてリズムを作れるようになる。 |
| ④鑑賞 | ・日本の伝統的な音楽や、諸外国の音楽に興味・関心を持ち、主体的に鑑賞し自分の言葉で批評することができるようになる。 |

2 第1学年の学習内容

表 現		
歌 唱	器 樂	創 作
・校歌 ・浜辺の歌 合唱祭に向けて ・夏の日の贈りもの ・各クラスの合唱曲 ・赤とんぼ ・そのままの君で ・変わらないもの など	アルトリコーダー ・よろこびのうた ・かっこう ・メリーさんのひつじ ・ラヴァーズコンチェルト ・アニーローリー ・オーラリー など 筝体験	・創作

鑑 賞
・ソネットを手がかりに、曲想の変化を感じ取ろう「春」 ・詩の内容と曲想との関わりを感じ取ろう「魔王」 ・日本の伝統音楽に親しみ、そのよさを味わおう「六段の調べ」

3 評価の観点

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」

○期末テスト 音楽に関する知識がある

○実技テスト 声量、声質、音色、運指、強弱、音の長さ、ブレス、フレーズ、拍子、樂曲の持つ雰囲気等が適切に表現できる

○鑑賞の感想文 曲の良さや特徴を味わったり気づいたりすることができ、それを理解できる。音楽的なことに触れながら、自分の言葉で批評できる

○授業中の態度 音楽に関心を持ち、周囲と協力しながら意欲的に音楽活動に取り組む

4 観点の達成度

達成度 80%以上（十分満足できる）…A 50～79%（おおむね満足できる）…B
50%未満（努力を要する）…C

音楽科の学習 第2学年

1 音楽科の学習のねらい

- | | |
|-----|--|
| ①歌唱 | ・歌唱に親しみ、歌詞を理解して歌い方を工夫できるようにする。
・混声合唱の学習を通して、曲の構成や音の重なりを理解し、表情豊かに歌えるようにする。 |
| ②器楽 | ・アルトリコーダーなどに親しみ、基本的な演奏技術や表現力を身につける。 |
| ③創作 | ・表現したいイメージを持ち、和音の特徴を生かしてリズムや旋律を作れるようする。 |
| ④鑑賞 | ・日本の伝統的な音楽や、諸外国の音楽に興味・関心を持ち、主体的に鑑賞し自分の言葉で批評することができるようする。 |

2 第2学年の学習内容

表 現		
歌 唱	器 樂	創 作
<ul style="list-style-type: none">・校歌・翼をください合唱祭に向けて・風になりたい・各クラスの合唱曲・夏の思い出・そのままの君で・変わらないもの など	<ul style="list-style-type: none">アルトリコーダー・きらきら星・威風堂々・ふるさと など <p>打楽器のための小品</p>	<ul style="list-style-type: none">・創作

鑑 賞
<ul style="list-style-type: none">・フーガの面白さを味わおう「フーガト短調」・曲の構成に注目して曲想の変化を味わおう「交響曲第五番ハ短調」・オペラに親しみ、その音楽を味わいながら聴こう「アイーダ」

3 評価の観点

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」

○期末テスト 音楽に関する知識がある

○実技テスト 声量、声質、音色、運指、強弱、音の長さ、ブレス、フレーズ、拍子、樂曲の持つ雰囲気等が適切に表現できる

○鑑賞の感想文 曲の良さや特徴を味わったり気づいたりすることができ、それを理解できる。音楽的なことに触れながら、自分の言葉で批評できる

○授業中の態度 音楽に関心を持ち、周囲と協力しながら意欲的に音楽活動に取り組む

4 観点の達成度

達成度 80%以上（十分満足できる）…A 50～79%（おおむね満足できる）…B
50%未満（努力を要する）…C

音楽科の学習 第3学年

1 音楽科の学習のねらい

- | | |
|-----|---|
| ①歌唱 | ・歌唱に親しみ、歌詞を理解して歌い方を工夫できるようにする。
・混声合唱の学習を通して、曲の構成や音の重なりを理解し、より表情豊かに深い表現で歌えるようとする。 |
| ②器楽 | ・ギターに親しみ、基本的な演奏技術を身につける。 |
| ③創作 | ・表現したいイメージを持ち、抑揚を生かして旋律を作れるようする。 |
| ④鑑賞 | ・日本の伝統的な音楽や、諸外国の音楽に興味・関心を持ち、主体的に鑑賞し自分の言葉で批評することができるようする。 |

2 第3学年の学習内容

表 現		
歌 唱	器 楽	創 作
• 校歌 • 花 合唱祭に向けて • 信じる • 各クラスの合唱曲 • 花の街 • 早春賦 • 旅立ちの日に など	ギター • 少年時代 旋律、コードネーム	• 創作

鑑 賞

- | |
|---|
| • 曲の生まれた背景を理解して、作曲者の思いを感じ取りながら聴こう「ブルタバ」
• 協奏曲に親しもう「アランフェス協奏曲」
• 曲の背景を知って、名曲を味わおう「ボレロ」 |
|---|

3 評価の観点

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」

○期末テスト 音楽に関する知識がある

○実技テスト 声量、声質、音色、運指、強弱、音の長さ、ブレス、フレーズ、拍子、樂曲の持つ雰囲気等が適切に表現できる

○鑑賞の感想文 曲の良さや特徴を味わったり気づいたりすることができ、それを理解できる。音楽的なことに触れながら、自分の言葉で批評できる

○授業中の態度 音楽に関心を持ち、周囲と協力しながら意欲的に音楽活動に取り組む

4 観点の達成度

達成度 80%以上（十分満足できる）…A 50～79%（おおむね満足できる）…B
50%未満（努力を要する）…C

学習到達度目標

- 1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を育てる。
- 2) 対象を観察する力、感性や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能を身に付け、創意工夫して美しく表現する能力を育てる。
- 3) 自然や美術作品についての基礎的な理解や見方を広げ、良さや美しさを感じる鑑賞の能力を育てる。

	学習のねらい	単元名・教材等	主な学習内容
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・形や図形を正確に写し取る 技術を身につける。 ・画面の中に構図を考えて デッサンする。 ・自分のスケッチから、変化と統一のある楽しい形を作り出すことができる。 ・効果的な配色を使い、美しく彩色することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・【絵画】(鉛筆デッサン) ・【デザイン】(自然物からの構成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチブックに鉛筆デッサンを行う。 ・果物や野菜をスケッチする。 ・直線や曲線、図形を用いて新しい形作りを行う。 ・画面構成をする。 ・配色計画を立てる。 ・ポスターカラーの使い方を 知り、美しく彩色する。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・用と美の備わったデザイン ができる ・工具を使って、切削、仕上げがていねいにできる。 ・名画の複製から芸術作品の 良さや美しさに興味を持ち 自分の価値意識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 【工芸】(ペーパーナイフの制作) 【鑑賞】(名画から好きな作品を見つけよう。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・使うということを考えたデザインをする。 ・動物や植物から美しい形、面白い形をさがす。 ・電動のこぎりを使って切断する。 ・ヤスリを使って削りだしていく。 ・丁寧で美しい仕上げを目指す。 ・名画40点を鑑賞し、作品の 良さを味わい、鑑賞カードに自分なりの感じ方を記入し、発表する。
3 学 期	<p>上履きをかく(淡彩) 静物画</p> <p>マーブリング、スペッタリング、デカルコマニー、ドリッピング、などを体験する。</p> <p>・友だちの作品の良いところを見つけて、発表することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【絵画】 鉛筆デッサンで上履きをあらわし、透明水彩絵の具で淡彩を施し、仕上げる。 【絵画、デザイン】 (シルエットを生かしたスペッタリング) ・【絵画】【デザイン】 (モダンテクニックの実習) 	<ul style="list-style-type: none"> 水彩用紙に鉛筆デッサンして、透明水彩絵の具の技法を使いさわやかに仕上げる。 ・型紙のシルエットの形とスペッタリングの技法が効果的に生かされたデザインを発想する。 ・黒い紙に適した色合いや色の変化の美しさを考える。 ・モダンテクニックを知り、その実際を体験する。

評価について

【授業中の活動】

- ・毎時間の目標と作業進度を理解し、集中して意欲的に取り組んでいるか評価する。
- ・集中度やすすみ具合(進度)を評価対象とする。
- ・授業で使う用具や必要な材料をきちんとよいしている。
- ・自分の席できちんと作業ができる。

【学習の成果及び提出物】

- ・それぞれの題材のねらいを理解し、観察力、発想力、表現力等について評価する。
- ・絵画、デザイン、彫刻、工芸については表現するための技法項目が多くやや比重が重い。
- ・提出物では、完成作品の70%以上を評価する。アイディアスケッチ、プリント、クロッキー ノートなどの提出物も評価対象とする。

【各種テストによる評価】

- ・テストは実施しない。

教科名	美術科	学年	第2学年
-----	-----	----	------

学習到達度目標

- ・主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- ・感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考えを培い、豊かに発想し、構想する能力や自分の表現方法を創意工夫して表現する能力を伸ばす。
- ・自然や美術作品などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることや美術との関わりに关心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

期間	学習のねらい	単元名・教材名等	主な学習内容
1 学期	ポスターの持つ役割を知り、実際に製作する ・条件をふまえ色彩効果・画面構成を考え、美しく仕上げる。	【デザイン】 《条件をふまえたポスターをつくる。》	・自分のテーマの内容にふさわしい、独創的なものを考えてアイディアスケッチをする。 ・モダンテクニックの技法を用いて効果的に彩色する。 ・構想画に適した材料の技法を用いて創造的に表現する。
2 学期	静物画 淡彩でかく 鉛筆デッサンから 自分の手を見つめてスケッチをし、粘土でかたまりを意識した手をつくる。	【絵画】 《鉛筆デッサンをする》 【彫刻】 《粘土で手を作る》	・手順を理解し、自分の意図を持ち、意欲的に制作に取り組む。 ・自然や動物の姿から心豊かな表現の構想をする。 ・細部にとらわれず、大きく動きをとらえ、つくることに集中して取り組むことができる ・動勢や重心、形をかたまりとして表すことができる。
3 学期	点の粗密で表す点描の技法を知り、自分の空想、動物や植物などを構成する力を養う。 ・黒と白の世界にドットの集まり方で灰色のグラデーションも生まれることを知る。 ・集中してコツコツと仕上げる力を養う。	【絵画】 《点描でかく》	・自分の空想や動物植物などの題材から白黒のバランスのとれた絵を描く。 ・細いポイントペンで均一な点をなるべく打っていくようにして、きれいな画面を構成する。 ・集中力を保って作品を仕上げる。

評価について

【授業中の活動】

- ・毎時間の目標と作業進度を理解し、集中して意欲的に取り組んでいるか評価する。
- ・集中度や進み具合(進度点)を評価対象とする。
- ・授業で使う用具や必要な材料をきちんと用意している。
- ・自分の席できちんと作業ができる。

【学習の成果及び提出物】

- ・それぞれの題材のねらいを理解し、観察力、発想力、表現力等について評価する。
- ・絵画、デザインについては、表現するための技法項目が多く、やや比重が思い。
- ・提出物では、完成作品の70%以上を評価する。その他、アイディアスケッチ、プリントなどの提出物も評価対象とする。

【各種テストによる評価】

- ・テストは実施しない。

教科名	美術科	学年	第3学年
-----	-----	----	------

学習到達度目標

- ・主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- ・感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考えを培い、豊かに発想し、構想する能力や自分の表現方法を創意工夫して表現する能力を伸ばす。
- ・自然や美術作品などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることや美術との関わりに关心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

学年	学習のねらい	単元名・教材名等	主な学習内容
1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・空想の世界をテーマとして自分のイメージした心象風景や主役が生きる構想画を発想する。 ・モダンテクニックの技法を学び、多様な表現方法を知る。 ・表現したい意図にあつた画材を生かし、効果的に表現する。 	【絵画・デザイン】 《CDジャケットをつくろう》	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマの内容にふさわしい、独創的なものを考えてアイディアスケッチをする。 ・モダンテクニックの技法を知り、作り出す。 ・構想画に適した材料の技法を用いて効果的、創造的に表現する。
2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中のデザインや工芸に関心を深め、自分の良さを生かして主体的に取り組む。 ・篆刻にふさわしいデザインの効果を考え、自分の名前から表現の構想を練り、美しく彫り上げる。 	【彫刻】 《自分の蔵書印を作ろう》	<ul style="list-style-type: none"> ・高麗石の特徴を知り、石の硬度に適したデザインの条件を理解する。 ・自分の姓名にあつたデザインや自分らしい個性的なアイディアを考え、ていねいに彫りすすめる。
3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・点の粗密で表す点描でかくことを知り、自分の空想、動物や植物などを構成する力を養う。 ・黒と白の世界にドットの集まり方が灰色のグラデーションも生まれることを知る。 ・集中してコツコツと仕上げる力を養う。 	【絵画】 《点描でかく》	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の空想や動物植物などの題材から白黒のバランスのとれた絵を描く。 ・細いポイントペンで均一な点をなるべく打っていくようにして、きれいな画面を構成する。 ・集中力を保って作品を仕上げる。

評価について

【授業中の活動】

- ・毎時間の目標と作業進度を理解し、集中して意欲的に取り組んでいるか評価する。
- ・集中度や進み具合(進度点)を評価対象とする。
- ・授業で使う用具や必要な材料をきちんと用意している。
- ・自分の席できちんと作業ができる。

【学習の成果及び提出物】

- ・それぞれの題材のねらいを理解し、観察力、発想力、表現力等について評価する。
- ・絵画、デザインについては、表現するための技法項目が多く、やや比重が思い。
- ・提出物では、完成作品の70%以上を評価する。その他、アイディアスケッチ、プリントなどの提出物も評価対象とする。

【各種テストによる評価】

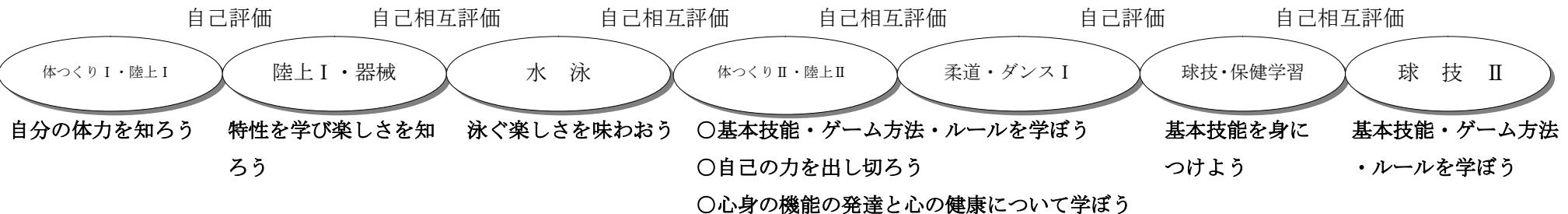
- ・テストは実施しない。

体育学習の流れ

令和 4年度 山王中学校

1 年

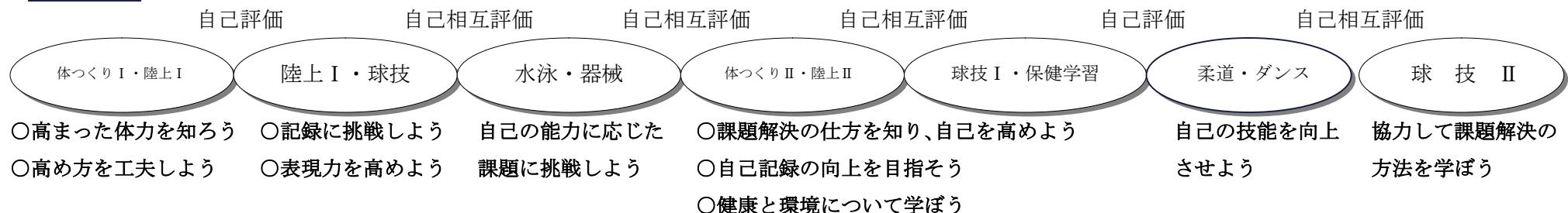
学習の仕方を身につけ、運動を好きになろう



【保 健】 →

2 年

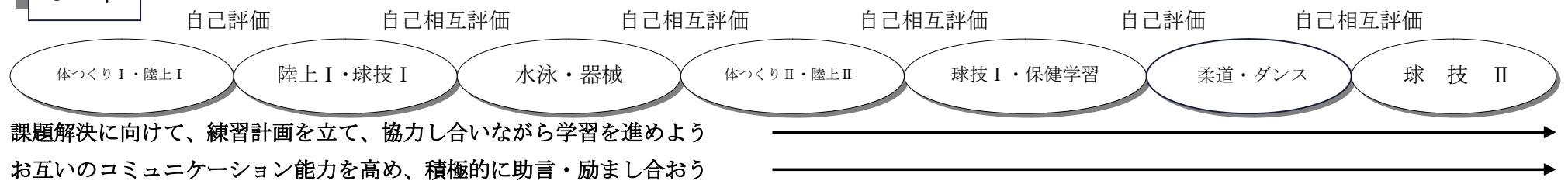
体力の向上を目指して、運動に意欲的に取り組もう



【保 健】 →

3 年

課題解決能力とコミュニケーション能力を高めよう



【保健学習】

傷害の防止について学ぼう

第1学年「保健体育」の学習

狭山市立山王中学校

学年	第1学年	教科目標	● 運動や健康安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、運動に親しむ資質や能力を身につけることができる。 ● 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を学ぶことができる。	
教科担当から一言		*授業に取り組む意欲や態度を特に重視します。すべての活動に目標を立て、全力を尽くしてほしいです。自ら立ち向かう強い心と体を育て、日々、前進していきましょう。仲間との協力関係の中で互いに向上しましょう。		
学期	単元名	単元のねらい（目標）	主な学習内容	
1 学 期	体つくりⅠ 陸上競技Ⅰ ・ハードル 器械運動	◎ 目的に応じた体操を知り、自分の体力に応じて適切に体操や運動を行うことができる。 ◎ リード脚や抜き脚などのハードル走の基本技能を身につける。 ◎ 基本的技能を身につけるとともに、今之力でできる技をよりきれいに行うことができる。	○ 集団行動（授業の約束など） ○ 体をほぐす運動（準備運動など） ○ 体力を高める運動（体力テストなど） ○ 基本技能・リード脚・抜き脚・インターバル ○ <マット> 前転・後転・開脚前転・開脚後転・とび前転 伸膝後転・側方倒立回転・倒立前転・ハンドスプリングなど	
	水泳	◎ 基本的な泳法を習得するとともに、自己にあった練習課題を設定し、より長く泳ぐことができる。	○ 泳法（クロール中心・平泳ぎ） ○ 泳力（距離に挑戦）	
2 学 期	体つくりⅡ 球技Ⅱ ・ソフトボール 【保 健】	◎ 自己の体力や生活に応じて、体育祭練習に取り組み、体力を高めることができる。 ◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。 ◎ 健康な生活と疾病の予防	○ 体育祭練習（集団演技・団体種目・個人種目） ● 体の柔らかさや巧みな動き ● 力強い動き ● 動きを持続する能力	
	陸上競技Ⅱ ・長距離走	◎ 自己のペースで、長い距離を続けて速く走ることができる。	○ 基本走法・ペース走・ビルドアップ走など ○ 記録会・ロードレース大会	
	武道 ・柔道 ダンス (現代的なリズムのダンス) 【保 健】	◎ 基本動作や基本的な対人動作を身につけさせ、その攻防による簡単な試合ができる。 ◎ リズムや音楽に合わせて、リズムに乗って音楽に合わせて踊ることができる。 ◎ 心身の機能の発達と心の健康	○ 基本動作・礼節 ○ いろいろな受け身 ○ リズミカルな動き、ステップ ○ 発表会 ○ 心身機能の発達・思春期・欲求など	
3 学 期	球技Ⅱ ・バレーボール ・ソフトテニス 【保 健】	◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。 ◎ 心身の機能の発達と心の健康	○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナーなど ○ 心身機能の発達・思春期・欲求など	
	球技Ⅱ ・サッカー ・バスケットボール	◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。	○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナー、作戦を生かしたゲームなど	
評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	
	具体的評価項目	【知識】 * 体育に関する知識 ・ルールの理解 ・練習方法の理解 * 保健に関する知識 ・授業時の発言内容 ・確認テスト 【技能】 * 各単元の技能と伸び ・練習時の記録 ・練習回数 ・技能テスト ・運動能力との関係 ・3分間走の記録	* 合理的な活動 ・ルールを守った行動 ・素早い行動 ・工夫した行動 ・課題を持った活動 * カードの内容 ・目標や課題 ・自己評価や反省 * 授業中の発言内容 * 保健学習 ・ノートやレポート	* 授業への参加状況 ・服装・身だしなみ ・カード等の提出 ・忘れ物・授業態度 * 意欲的な取り組み ・準備運動・主運動 ・準備・片付け ・仲間との関わり ・呼びかけや声 * 保健授業の取り組み ・発言発表 ・授業態度

第2学年「保健体育」の学習

狭山市立山王中学校

学年	第2学年	教科目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動や健康安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、運動に親しむ資質や能力を身につけることができる。 ● 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を学ぶことができる。 	
教科担当から一言		<p>*授業に取り組む意欲や態度を特に重視します。すべての活動に目標を立て、全力を尽くしてほしいです。自ら立ち向かう強い心と体を育て、日々、前進していきましょう。仲間との協力関係の中で互いに向上しましょう。</p>		
学期	単元名	単元のねらい（目標）	主な学習内容	
1 学 期	体つくりⅠ 陸上競技Ⅰ ・ハードル走 ・走り幅跳び 球技Ⅰ ・アルティメット 器械運動 水泳	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 目的に応じた体操を知り、自分の体力に応じて適切に体操や運動を行うことができる。 ◎ リード脚や抜き脚などのハードル走の基本技能を身につける。 ◎ リズミカルな踏み切りから空中動作、着地動作を行うことができる。 ◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。 ◎ 基本的技能を身につけるとともに、今之力でできる技をよりきれいに行うことができる。 ◎ 基本的な泳法を習得するとともに、自己にあった練習課題を設定し、より長く泳ぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団行動（授業の約束など） ○ 体をほぐす運動（準備運動など） ○ 体力を高める運動（体力テストなど） ○ 基本技能・リード脚・抜き脚・インターバル ○ 助走・踏み切り・空中動作・着地動作 ○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナーなど ○ <マット> 前転・後転・開脚前転・開脚後転・とび前転 伸膝後転・側方倒立回転・倒立前転・ハンドスプリングなど ○ 泳法（クロール中心・平泳ぎ） ○ 泳力（距離に挑戦） 	
2 学 期	体つくりⅡ 球技Ⅱ ・ソフトボール ダンス ・現代的なリズムのダンス 【保 健】	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 自己の体力や生活に応じて、体育祭練習に取り組み、体力を高めることができる。 ◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。 ◎ リズムや音楽に合わせて、リズムに乗って音楽に合わせて踊ることができる。 ◎ 障害の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育祭練習（集団演技・団体種目・個人種目） <ul style="list-style-type: none"> ● 体の柔らかさや巧みな動き ● 力強い動き ● 動きを持続する能力 ○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナーなど ○ リズミカルな動き、ステップ ○ 発表会 ○ 交通事故、自然災害、心肺蘇生法など ○ 基本走法・ペース走・ビルドアップ走など ○ 記録会・ロードレース大会 ○ 基本動作・礼節 ○ いろいろな受け身 ○ 対人動作(固め技) ○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナーなど 	
3 学 期	球技Ⅱ ・バレーボール ・ソフトテニス 球技Ⅱ ・サッカー ・バスケットボール 【保 健】	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。 ◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。 ◎ 健康な生活と疾病の予防 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナーなど ○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナー、作戦を生かしたゲームなど ○ 生活習慣病の予防、薬物乱用防止など 	
評 価 方 法	観点 具体的 評価項目	知識・技能 【知識】 * 体育に関する知識 • ルールの理解 • 練習方法の理解 * 保健に関する知識 • 授業時の発言内容 • 確認テスト 【技能】 * 各単元の技能と伸び • 練習時の記録 • 練習回数 • 技能テスト • 運動能力との関係 • 3分間走の記録	思考・判断・表現 * 合理的な活動 • ルールを守った行動 • 素早い行動 • 工夫した行動 • 課題を持った活動 * カードの内容 • 目標や課題 • 自己評価や反省 * 授業中の発言内容 * 保健学習 • ノートやレポート	主体的に学習に取り組む態度 * 授業への参加状況 • 服装・身だしなみ • カード等の提出 • 忘れ物・授業態度 * 意欲的な取り組み • 準備運動・主運動 • 準備・片付け • 仲間との関わり • 呼びかけや声 * 保健授業の取り組み • 発言発表 • 授業態度

第3学年「保健体育」の学習

狭山市立山王中学校

学年	第3学年	教科目標	● 運動や健康安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、運動に親しむ資質や能力を身につけることができる。 ● 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を学ぶことができる。	
教科担当から一言		* 授業に取り組む意欲や態度を特に重視します。すべての活動に目標を立て、全力を尽くしてほしいです。自ら立ち向かう強い心と体を育て、日々、前進していきましょう。仲間との協力関係の中で互いに向上しましょう。		
学期	単元名	単元のねらい（目標）	主な学習内容	
1 学 期	体つくりⅠ 陸上競技Ⅰ ・ハードル走 ・走り幅跳び 球技Ⅰ ・アルティメット 器械運動 水泳	◎ 目的に応じた体操を知り、自分の体力に応じて適切に体操や運動を行うことができる。 ◎ ハードル走の基本技能を身につけ、記録を向上させる。 ◎ リズミカルな踏み切りから空中動作(そり跳び、ハサミ跳び)、着地動作を行うことができる。 ◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。 ◎ 基本的技能を身につけるとともに、今之力でできる技をよりきれいに行うことができる。 ◎ 基本的な泳法を習得するとともに、自己にあった練習課題を設定し、より長く泳ぐことができる。	○ 集団行動（授業の約束など） ○ 体をほぐす運動（準備運動など） ○ 体力を高める運動（体力テストなど） ○ 基本技能・リード脚・抜き脚・インターバル ○ 助走・踏み切り・空中動作・着地動作 ○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナーなど ○ <マット> 前転・後転・開脚前転・開脚後転・とび前転 伸膝後転・側方倒立回転・倒立前転・ハンドスプリングなど ○ 泳法（クロール中心・平泳ぎ） ○ 泳力（距離、速さに挑戦）	
2 学 期	体つくりⅡ 球技Ⅱ ・ソフトボール ダンス ・現代的なリズムのダンス 【保 健】	◎ 自己の体力や生活に応じて、体育祭練習に取り組み、体力を高めることができる。 ◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。 ◎ リズムや音楽に合わせて、リズムに乗って音楽に合わせて踊ることができる。 ◎ 健康と環境	○ 体育祭練習（集団演技・団体種目・個人種目） ● 体の柔らかさや巧みな動き ● 力強い動き ● 動きを持続する能力 ○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナーなど ○ リズミカルな動き、ステップ ○ 発表会 ○ 環境への適応能力、飲料水、空気など ○ 基本走法・ペース走・ビルドアップ走など ○ 記録会・ロードレース大会	
3 学 期	球技Ⅱ ・バレーボール ・ソフトテニス 球技Ⅱ ・サッカー ・バスケットボール 【保 健】	◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。 ◎ 種目の学び方や基本的技能を身につけ、協力して楽しくゲームができる。 ◎ 健康な生活と疾病の予防	○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナーなど ○ 基本技能・個人技能・集団技能 ○ ゲーム・ルール・マナー、作戦を生かしたゲームなど ○ 感染症、性感染症、医薬品の利用など	
評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	
	具体的評価項目	【知識】 * 体育に関する知識 ・ルールの理解 ・練習方法の理解 * 保健に関する知識 ・授業時の発言内容 ・確認テスト 【技能】 * 各単元の技能と伸び ・練習時の記録 ・練習回数 ・技能テスト ・運動能力との関係 ・3分間走の記録	* 合理的な活動 ・ルールを守った行動 ・素早い行動 ・工夫した行動 ・課題を持った活動 * カードの内容 ・目標や課題 ・自己評価や反省 * 授業中の発言内容 * 保健学習 ・ノートやレポート	* 主体的に学習に取り組む態度 * 授業への参加状況 ・服装・身だしなみ ・カード等の提出 ・忘れ物・授業態度 * 意欲的な取り組み ・準備運動・主運動 ・準備・片付け ・仲間との関わり ・呼びかけや声 * 保健授業の取り組み ・発言発表 ・授業態度

第1学年「技術・家庭科」の学習

狭山市立山王中学校

学年	第1学年	教科目標 技術・家庭	・材料の特質を理解し、生活に役立つ作品を作ろう ・作物を栽培して、生活に生かそう
教科	技術・家庭		・家族・家庭について考えよう ・健康な食生活をするための基礎を身につけよう
学年	単元名		単元のねらい（目標）
1学期	技術	・木材と生活 レポート作り ・作物の栽培 ・ものづくり 生活に役立つ作品 製作	・木材と生活について考え、自分の考えを伝える。 ・作物の栽培を通して、生活や社会環境との関わりについて考える ・材料の特質を知り、生活に役立つ簡単な作品を製作することにより、物作りの基礎を学ぶ。 ・作品の自己評価
2学期	家庭	A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活【食生活】	・家庭や家族の基本的な機能を知り、家族関係をよりよくする方法を考える。 ・食事の役割について知る。
3学期		B 衣食住の生活【住生活】 ・持続可能な食生活 ・持続可能な住生活	・中学生に必要な栄養を理解する。 ・食生活の自立に必要な実践的な知識と技能を習得する。 ・健康を考えた食事を考えることができる。 ・住まいの基本的な役割について理解する。
評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現
	具体的評価	・製作物 ・作業進度 ・各工程の評価 ・定期テスト ・機器・器具の名称、使い方の理解など	・実技テスト ・レポート ・用語の意味 ・授業時の発言内容等
備考	○技術分野（前期）、家庭分野（後期）の入れ替えは10月中旬頃を予定しています。今年度は少人数指導によりクラスによって技術を受ける人、家庭科を受ける人が分かれます。 ○評価については前期分は2学期に、後期分は3学期に記載されます。学年評価は、技術分野と家庭分野の総合した評価が記載されます。	・提出物などの創意・工夫 ・作品の創意・工夫 ・学んだ知識・技能を適切に使う工夫	・出席 ・服装 ・忘れ物 ・提出物（作品、レポート、ワーク、ノート、プリント等） ・作業、実習態度 ・発言発表等授業態度
学習のポイント	技術	・安全第一で実習を受けましょう。 ・創意工夫を作品に盛り込みましょう。 ・様々な人と協力したり、相談したりしましょう。	家庭 プリントで授業を行いますが、教科書と合わせて覚えましょう。 教科書には実習に必要な基礎縫いのやり方も載っていますので、教科書を中心勉強して下さい。 必要なことは自分でメモをしましょう。

第2学年「技術・家庭科」の学習

狭山市立山王中学校

学年	第2学年	教科目標 技術 家庭	・エネルギーを変換して、生活に役立てよう	
教科	技術・家庭		・基礎縫いのやり方を覚え、実践できるようにしよう ・消費生活と環境について考えよう	
学期	単元名	単元のねらい（目標）	主な学習内容	
1 学期	家庭 生活の課題と実践	B 衣食住の生活【衣生活】	・日常の衣服を整えることができるようとする。 ・衣服の選択、着用、手入れに関する基礎的な知識と技能を身につける。	
		C 消費生活と環境	・衣服の手入れと補修（基礎縫い）ができるようになる。 ・消費生活に必要な基礎知識を身につけ、環境にも配慮したより良い消費生活について考える。 ・基礎的な調理ができるようとする。 ・生活中から課題を見出し、解決に向けて考える。	
2 学期	技術 エネルギー変換のレポート作成 ・ものづくり ラジオの製作	・エネルギー変換のレポート作成	・衣服の計画的な活用と選択について学ぶ。 ・衣服の材料（繊維、糸、布地について）を学ぶ。 ・衣服の手入れと補修ができるようになる。 ・基礎縫いを使った作品を作る。 ・販売方法や消費生活と契約などについて学ぶ。 ・環境に配慮した暮らし方を考える。 ・調理実習を行う。 ・生活中から課題を見出し、解決に向けて考え、実践を行いレポートにまとめ発表する。	
		・ものづくり ラジオの製作	・これからのエネルギー変換とその利用について考える。 ・エネルギー変換と力の伝達について学ぶ。 ・ラジオを作り、エネルギーの変換について理解する。 ・作品作りの工程にしたがって製作する ・作品の自己評価が行える	
評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	
	具体的評価	・製作物 ・作業進度 ・各工程の評価 ・定期テスト ・機器・器具の名称、使い方の理解など	・実技テスト ・レポート ・用語の意味 ・授業時の発言内容等	・提出物などの創意・工夫 ・作品の創意・工夫 ・学んだ知識・技能を適切に使う工夫
備考	○技術分野（前期）、家庭分野（後期）の入れ替えは10月中旬頃を予定しています。今年度は少人数指導によりクラスによって技術を受ける人、家庭科を受ける人が分かれます。			
	○評価については前期分は2学期に、後期分は3学期に記載されます。学年評価は、技術分野と家庭分野の総合した評価が記載されます。			
学習のポイント	技術	家庭		
	・安全第一で実習を受けましょう。 ・創意工夫を作品に盛り込みましょう。 ・様々な人と協力したり、相談したりしましょう。	プリントで授業を行いますが、教科書と合わせて覚えましょう。 教科書には実習に必要な基礎縫いのやり方も載っていますので、教科書を中心に勉強して下さい。 必要なことは自分でメモをしましょう。		

第3学年「技術・家庭科」の学習

狭山市立山王中学校

学年	第2学年		教科目標 技術 家庭	・エネルギーを変換して、生活に役立てよう	
教科	技術・家庭			・幼児の生活について学ぼう。 ・3年間学んだことを総合的にまとめ生活を良くしていく力を身につけよう。	
学期	単元名		単元のねらい（目標）		主な学習内容
1学期	技術	・情報に関する技術	・生活と技術のかかわり ・ソフトウェアの機能と情報の処理	・日常生活をデジタル化する。 「デジタル日記の作成」 「コンピュータで季節の手紙を作成」	
		・情報モラル	・情報モラルとコンピュータの利用	・情報の収集・発信の際のルールとマナーについて考える。	
2学期	技術	・情報に関する技術 自動制御	・コンピュータで問題の解決を図る。 (情報収集の仕方を考え、処理する能力を養う) ・プログラムによる計測・制御の学習	・個人新聞づくりを通して、自分の思いを作品にする。(HTML形式で保存してホームページとしての情報発信の仕方を学ぶ) ・インターネット等からテーマに関する情報を得て、作品に活かす。	
		家	・幼児の遊び	・幼児のおもちゃや生活に役立つものの製作ができる。 ・幼児の遊びとふれあい	・幼児のおもちゃや生活に役立つものの製作をする。
3学期	技術	・情報に関する技術 作品づくり	・コンピュータで問題の解決を図る。 (情報収集の仕方を考え、処理する能力を養う) ・情報をインターネット等から、自分に必要な情報を得ることができる。	・コンピュータでプログラムを作成して、モーターボット等の制御について学ぶ。 ・インターネット等からテーマに関する情報を得て、作品に活かす。	
		家庭	・これからの私たちと家族 ・3年間のまとめ	・中学生として、家族との関係をよくすることを考える。 ・技術・家庭科の3年間のまとめをする。	・人生設計を考える。 ・3年間の学習をまとめる。
備考	○技術分野、家庭分野を各自がバランス良く課題達成に向けて学習します。 ○評価は技術分野と家庭分野の総合した評価が、「技術・家庭」として各学期と、学年評価の評価欄に記載されます。				
評価方法	観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	具体的的評価	・製作物 ・作業進度 ・各工程の評価 ・定期テスト ・機器・器具の名称、使い方の理解など	・実技テスト ・レポート ・用語の意味 ・授業時の発言内容等	・提出物などの創意・工夫 ・作品の創意・工夫 ・学んだ知識・技能を適切に使う工夫	・出席・服装・忘れ物 ・提出物(作品、レポート、ワーク、ノート、プリント等) ・作業、実習態度 ・発言発表等授業態度
備考	○技術分野、家庭分野をバランスよく課題達成に向けて学習します。 ○評価は技術分野と家庭分野の統合した評価が、「技術・家庭」として各学期と学年評価の評価欄に記載されます。				
学習のポイント	技術			家庭	
	・安全第一で実習を受けましょう。 ・創意工夫を作品に盛り込みましょう。 ・様々な人と協力したり、相談したりしましょう。			プリントで授業を行いますが、教科書と合わせて覚えましょう。 教科書には実習に必要な基礎知識のやり方も載っていますので、教科書を中心に勉強して下さい。 必要なことは自分でメモをしましょう。	

英語の授業の評価の方法

1. 観点別評価

通知表の観点	評価項目
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト(年間5回) パフォーマンステスト
思考・判断・表現	(発表形式、生徒同士の会話形式など学期に1回程度)
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 提出物 各種パフォーマンステストに向けての目標・振り返り 英語を使って、相手に伝えようと努力しているか

※以上の観点をそれぞれABCで評価し、各学期の評定(54321)を決定する

《以下のabcの目安》

a…100点満点としたときの90%以上

b…100点満点としたときの50%以上

c…100点満点としたときの50%以下

(例)	ペーパーテスト等の結果 (活動の観察の結果を加味)			パフォーマンステスト及び活動の観察の結果 (ペーパーテスト等の結果を加味)				評定
	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	観点別評価		
知識・技能	b	b	c	c	b	B	3	B
	b	b	c	b	c	B		
	b	b	b	b	c	B		

自己評価(振り返りの記述内容)を参考